

地域医療連携ニュース

vol. 1



進行子宮頸癌に対する 神経温存広汎子宮全摘術の治療効果



産婦人科 部長 吉田 茂樹

平素は、千船病院の地域連携にご理解とご協力いただき、誠に有難うございます。

近年、当院産婦人科では、子宮頸癌・体癌・卵巣癌を含む婦人科悪性腫瘍の治療に特に重点を置き診療を行っています。手術件数も年々増加しており、これも常日頃の、諸先生方からのご紹介によるものと、大変感謝しております。

これまで一般的に、進行子宮頸癌 Ia2 から IIb 期の症例に対する根治手術として、「広汎子宮全摘術」が施行されてきましたが、この術式の副作用・合併症として、排尿を司る骨盤神経叢ならびに、下腹神経切断に伴う術後の排尿障害が最大の問題となっていました。近年、この合併症を軽減・回避する目的で、神経温存広汎子宮全摘術が導入されつつあり、当院においても、昨年度よりこの術式を導入しました。

「広汎子宮全摘術」は通常、基靭帯を骨盤壁近傍で切断し、膀胱子宮靭帯前層を切断後、尿管を移動し、同靭帯後層を露出・切断、傍脛組織を処理し、脛断端切除を行います。しかし神経温存法では、まず下腹神経の内側に位置する仙骨子宮靭帯および直腸脛靭帯を神経と分離し、その靭帯部分のみを切断します。ついで深部子宮静脈を露出し、同血管を分離切断し、断端をこすりあげることで、下腹神経・骨盤神経叢から分離します。膀胱枝は膀胱子宮靭帯後層の外側を通過して膀胱に入るため、内側で同靭帯を切断します。下腹神経の子宮枝は切断しますが、膀胱枝は温存され、これにより術後の排尿障害が回避されます。

当科で、この神経温存広汎子宮全摘術を導入して以来、施行したほぼ全ての患者さまで極めて良好な排尿機能の保持が確認されています。

平成 25 年 4 月より、兵庫県立がんセンターで、長年にわたる婦人科癌の治療経験を持つ大木規義医師が、新たに医長として当科に着任し、さらに多くの婦人科腫瘍症例に対応できるようになりました。今後も、安全に手

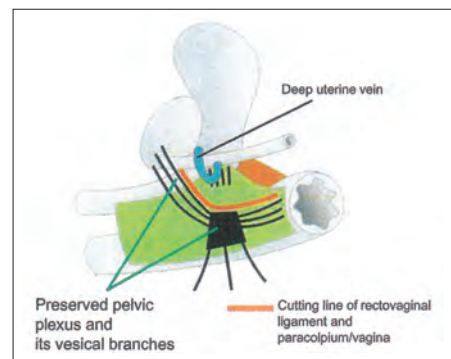
術を遂行することはもとより、機能温存手術を積極的に取り入れ、患者さまが術後良好な QOL を保てるよう、最善の努力をしていきますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

何かご不明な点がございましたら、当院地域医療科まで遠慮なくお問い合わせ下さい。

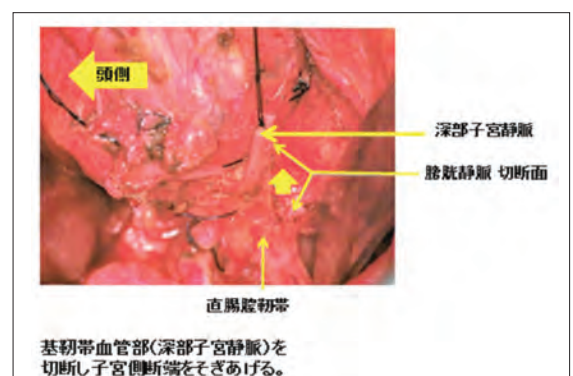
<平成 24 年度>

【産科】		【婦人科】	
分娩数	1500件	手術件数	400件
(うち帝王切開数)	400件	・悪性腫瘍手術	50例
		・腹腔鏡手術	115例

【図 1】



【図 2】



感染管理認定看護師 河野静香



【千船病院における感染管理の実際】

当院では、各部門（医師6名、看護師4名、薬剤師1名、臨床検査技師2名、臨床工学技士1名、事務員3名）により院内防止対策委員会（Infection Control Committee：ICC）を構成しており、ICCの中の数名は実働部隊としての感染対策チーム（Infection Control team：ICT）も兼ねています。

ICTの主な活動内容としては、耐性菌サーベイランス、抗菌薬の適正使用状況確認、感染対策マニュアルの追加・修正、週1回院内ラウンドが挙げられます。特に院内ラウンドでは、直接現場スタッフに助言することで、感染防止対策の徹底が図られています。

また、感染管理認定看護師が専従配置されているため、院内PHSで適宜コンサルテーションを受けることができ、現場で発生する感染管理上の様々な疑問や問題を、タイムリーに解決しています。

【感染防止対策加算と地域連携】

平成24年の診療報酬改訂により、感染防止対策加算が新設されました。当院は感染防止対策加算1を算定し、ふたつの地域連携活動を開始しました。

ひとつは感染防止対策加算2の届出をしている医療施設との連携です。年4回の合同カンファレンスを開催し、お互いの施設での耐性菌検出状況や抗菌薬使用状況、感染対策上の問題点について情報交換を行って

います。カンファレンスでの意見交換を通して、自施設における感染対策のヒントを得ることができています。また、感染防止対策加算2の施設からの院内感染対策に関する相談を、適宜電話やメールで受けています。

もうひとつは、感染防止対策地域連携加算の算定に伴う、感染防止対策加算1の届出をしている医療施設との連携です。年1回、相互に赴いて感染防止対策に関わる評価を行っています。感染防止対策地域連携加算チェック項目表（8ページ153チェック項目）という様式に沿って先に自己評価を行い、相互ラウンド時に他者評価を受けるという方法を取っています。相互に評価しあうことで他施設での感染防止対策の工夫点を知ることができ、自施設の課題解決に向けた情報が得られるなど、実際に訪問して確認することの重要性が実感できました。

【今後の課題と取り組み】

感染防止対策はどの医療施設にとっても重要な課題であり、徹底するためには費用もかかるため、感染防止対策加算の継続が望まれます。今後は、現在感染防止対策加算を算定していない医療施設とも連携を図り、地域全体の感染防止対策に取り組んでいきたいと考えています。

INFORMATION

産婦人科

土曜日の外来開始のお知らせ

平成25年6月1日より土曜日の産婦人科外来を行っております。妊娠されている患者さまで、お仕事やご家族

のご都合等により土曜日の外来をご希望の方がおられましたら、ぜひご紹介をお願いします。なお、完全予約制となりますので事前に千船病院 地域医療科までご連絡下さい。診療時間は9:00～11:30となっております。

愛仁会 千船病院

大阪市西淀川区佃2丁目2-45
TEL 06-6471-9541(代表)
06-6473-9765(直通)
FAX 06-6474-0161(直通)
<http://www.chibune.aijinkai.or.jp/>

理念

千船病院(千船腎臓・透析クリニック)は医療を通じて社会に貢献します

基本方針

- ・患者さまに質の良い医療を提供します
- ・患者さまに安心と満足の頂ける公正な医療を提供します
- ・患者さまのプライバシーと権利を守ります
- ・開放型病院としての役割を自覚し効率の良い地域医療を提供します